

場所	長崎県佐世保市	
面積	0.63ha	
活動目的	本サイトにおける活動は、地域固有の希少種を含む多様な動植物が生息・生育できる環境を、長期的な視点を持って保全し、その豊かさを次世代へ継承していくことを目的とする。さらに、小森川の自然と触れ合い、その魅力を五感で体感できる機会を創出することで、地域住民の環境保全意識の向上に貢献する。将来的には、本活動をモデルとして市内全域の生物多様性保全活動の促進へと繋げていく。	
サイト概要	小森川は、長崎県佐世保市南部を流れる二級河川であり、その源を標高670mの隠居岳に発し、早岐瀬戸に注いでいる。流路延長は約9.8km、流域面積は約28.5km ² 。河川勾配が小さく、過去に市内で唯一選炭排水が入らなかった事に加え、水辺に植物が豊富な事から、淡水魚や水生昆虫が豊かであり、佐世保市の「保全することが望ましい地域」に選定されている。中でも、本サイトは、小森川の中流域から下流域にかけて位置し、市内でも特に豊かな生態系を有する区域であり、多様な動植物の生態系が保たれている。	

土地利用の 変遷

小森川流域では、古くから農業用水として河川水が利用され、水田稲作がなされてきた。また、江戸時代には「三川内焼」の窯元が数多く存在しており、現在でも伝統工芸品として窯元が点在している。本サイト内の河川敷の一部は遊歩道として整備されており、地域住民の憩いの場となっている。さらに、近隣小学校が環境啓発を目的とした生物観察会を行ったり、沿道では地元の自治協議会主催のイベントが開催され、地域の子どもたちの学びの場、地域住民の交流の場、そして人と自然が共存する空間として活用されている。

サイト周辺の 環境

水田が広がる水田里山であるが、小森川の源流は低山でありながら、支流や用水路の各所で湧水が存在するため、水質が良く水生生物の豊かな自然環境が残されている。また、本サイト周辺には住宅地や農地が広がり、人と自然が共存する里地里山の風景が広がっている。

アピール ポイント

本サイトは、小森川の豊かな自然を身近に感じ、生物多様性について学ぶことができる場所として、大きな可能性を秘めている。水辺まで降りて川に入ることができる環境があり、子どもたちが安全に水生生物と触れ合う体験を通して、自然への理解を深めることができる。また、一部に遊歩道が整備されているため、散策を楽しみながら、四季折々の動植物を観察することもできる。環境教育や自然体験の拠点として、地域活性化を促進するとともに、ネイチャーポジティブへ貢献することが期待される。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトは、二級河川である小森川の中流域から下流域に位置し、周辺には水田や畑が広がり、鳥類の捕食・休息場となっている。河床は主に礫で構成されているが、一部は岩盤が露出している。ツルヨシ群落、ススキ群落、ミゾソバ群落などの植生が繁茂し、希少種を含む多様な魚類が生息するなど、里山河川として豊かな生態系を形成している。

【主な植生】

ツルヨシ群落、セキショウ群落、ススキ群落、ミゾソバ群落、ギシギシ群落、カラムシ群落など

【確認された主な動植物など】

希少種を含む、魚類10種、昆虫類24種、両生類2種、甲殻類1種、爬虫類1種、貝類4種、植物24種、鳥類19種を確認。主な種は以下のとおり。

【昆虫類】

アオサナエ、コシアキトンボ、シオカラトンボ、ダビドサナエ

【植物】

アカメヤナギ、イタドリ、エノコログサ、オギノツメ、カキドオシ、カナムグラ、サルトリイバラ、ショウブ、スギナ、セキショウ、ツルヨシ、マルバツユクサ、ツルヨシ、ヤマグワ、ヤマフジ、ヨメナ、ヨモギ

【鳥類】

イソシギ、カワセミ、キセキレイ、コガモ、セグロセキレイ



写真の説明：シオカラトンボ



写真の説明：ヨメナ

生物多様性の価値

価値（４）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトには、遊歩道が河原に伸び、川を横断するように配置された飛び石があり、容易に河川に入り観察することができる。川は流れが緩やかで水深も浅く、安全な水辺空間が広がっている。連携団体から講師を招き、採集した生物、生態系や外来種等について解説する自然観察会を行っている。子どもたちが、タモを持って水生生物と直接触れ合い、自然の豊かさや大切さを体感・学習できる貴重な場となっている。

【主な植生】

ツルヨシ群落、セキショウ群落、ススキ群落、ミゾソバ群落、ギシギシ群落、カラムシ群落など

【確認された主な動植物など】

希少種を含む、魚類10種、昆虫類24種、両生類2種、甲殻類1種、爬虫類1種、貝類4種、植物15種、鳥類19種を確認。主な種は以下のとおり。

【魚類】

オイカワ、カワムツ、シマヨシノボリ、トウヨシノボリ、ナマズ

【昆虫類】

アオモンイトトンボ、オオシオカラトンボ、クロイトトンボ、コオニヤンマ、ショウジョウトンボ、ベニトンボ

【貝類】

イシマキガイ、カワニナ、ヒメタニシ

【植物】

アカメガシワ、イヌビワ、エビモ、オオイヌタデ、ギシギシ、クロモ、ケイヌビエ



写真の説明：自然観察会活動の様子



写真の説明：自然観察会の下見で発見したカワニナ

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場	
【場の概況】 河川は護岸整備されているが、河川岸には、草本類が生え、小森川に流れる水路は湧水由来のため、水質が良好に保たれており、魚類、昆虫類を始めとした希少な動植物が確認されている。 【確認された希少種】 環境省レッドリストまたは長崎県レッドリストに掲載された希少種として魚類4種、昆虫類12種、両生類1種、甲殻類1種、爬虫類1種、貝類1種、植物1種、鳥類5種を確認。	5

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
〈活動目的〉 本サイトにおける活動は、地域固有の希少種を含む多様な動植物が生息・生育できる環境を、長期的な視点を持って保全し、その豊かさを次世代へ継承していくことを目的とする。さらに、小森川の自然と触れ合い、その魅力を五感で体感できる機会を創出することで、地域住民の環境保全意識の向上に貢献する。将来的には、本活動をモデルとして市内全域の生物多様性保全活動の促進へと繋げていく。 〈活動内容〉 サイト内には、遊歩道が河原に伸び、川を横断するように配置された飛び石があり、容易に河川に入り観察できる。川の流れが緩やかで水深も浅く、自然と触れ合い、五感を使いながら、生物多様性や環境保全について学ぶことができる区域を「観察体験ゾーン」とし、人が立ち入ることなく、自然環境を保全し、自然の遷移を観察していくことを目的とした区域を「保全保護ゾーン」とする。それぞれのゾーンで行う活動の詳細については、活動計画書へ記載。 〈脅威に対する対策〉 本サイトを含む小森川全域では、特定外来生物とされるブラックバス、ブルーギル、ミシシippアカミミガメ、アメリカザリガニ、ウシガエル等の外来生物が確認されている。これらの在来種に影響を与える外来生物に対しては、自然学習ゾーンでの活動と併せて防除を行う。外来生物と同様、小森川全域で、重点対策外来種とされるオオカナダモ等の外来植物が確認されている。他の在来植物の生育の妨げとならないよう、発見次第防除を行う。	【モニタリング対象】 魚類、昆虫類、両生類、甲殻類、植物を対象とする。 【モニタリング場所】 ○活動モニタリング：自然学習ゾーン ○ラインセンサス法によるモニタリング：サイト全域 ○定点撮影：サイト全域 【モニタリング手法】 ○活動モニタリング ○ラインセンサス法によるモニタリング ○定点撮影 【モニタリングの実施時期及び頻度】 ○活動モニタリング：4～6月、9～11月のうち年数回実施 ○ラインセンサス法によるモニタリング：4月、7月、10月、1月の年4回実施 ○定点撮影：4月、7月、10月、1月の年4回実施 【モニタリング実施体制】 ○基本的には佐世保市環境部の職員が中心となり、モニタリング計画の策定、調査の実施、データの分析、報告書の作成などを行う。必要に応じて、有識者に協力を仰ぐ。自然観察会、環境学習会、水辺環境整備活動時には、参加者にも協力を依頼し、市民参加型のモニタリングを実施する。